

学習内容報告書 フォーマット

学校名	東京都立八丈高等学校
授業者	須崎公太

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

地域社会を築く

1-2. 学年

1 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

人間と社会

1-4. 単元の概要

学校や地域における課題の中から、課題解決のための方策について、探究活動を用いて繰り返し行い、自らの在り方・生き方や存在価値を考えさせる。

この単元では、海浜清掃活動を通して、八丈島に生息する海洋生物や海洋環境について知るとともに、漂着物調査を通して、八丈島の環境に与える影響を課題としてとらえ、環境保全のための方策を探究し、子供たちの日常生活への振り返りから海洋環境保護について考えさせる。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

海洋ごみ問題が顕在化する中、とくにプラスチックごみが海上を漂い、生態系や人体に悪影響を及ぼすことが指摘されている。自分たちが住む八丈島の沿岸においても海洋ごみ問題を考え、問題解決のために自分たちの日常生活で改善できることを考えさせるため単元として設定した。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

基本的な生活習慣や健康で安全な生活態度の形成、清掃活動を通して働くことの意義の理解、一人一人の生徒の学校生活や学習への適応を図るための資質能力をはぐくみたい。

1-7. 単元の展開（全8時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋ゴミの現状についての把握</li> </ul> ウミガメの内臓を調べたところ、プラスチックゴミが見つかったというが生物学会での調査結果をもとに海洋ゴミの現状についての関心をもたせる。	プラスチックゴミが見つかったウミガメの内臓写真、海鳥の内臓写真を提示し、海洋ゴミ問題の深刻さについて、関心をもたせる。／図書館資料やインターネットを通じて、海洋ゴミが生物に及ぼす影響について調べ学習をおこなう。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋ゴミの実情を知り、起こりうる問題点についての学習</li> <li>海洋に存在するごみの種類についての学習</li> </ul>	海洋ゴミについての前時の復習・確認 ゴミだらけの砂浜の写真、ゴミの浮いた海、ゴミの絡まった魚などの画像を提示し、海洋ゴミの深刻さについてグループワークを行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋ゴミがどこから流れてきているのかについて考える学習</li> </ul>	グループごとに話しあわせ、海洋ゴミがどこから流れてきているのかについて考えさせる。資料提示として、海洋ゴミを撮影した画像を提示し、資料から海洋ゴミの発生源について考えさせる。その際、撮影場所の提示も行い、海を渡って漂着してきたことについてイメージさせる。
時間 外	<ul style="list-style-type: none"> <li>八丈島での海洋漂着物調査</li> <li>8時半底土港海水浴場集合</li> <li>荒天のため作業時間は90分程度</li> </ul>	グループごとにビニール袋、火ばさみを持たせ、ゴミの収集を行う。回収したごみを集約し、分類させる。 別日に分類したゴミの発生源について考察できることをポスターにまとめ小笠原での発表資料とする。
時間 外	<ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原高校との合同学習会（6/20-25）</li> </ul>	別紙実施概要に記載
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋教育成果発表会</li> <li>① H31.3 に実施した八丈町民間団体が主催したハワイ研修に参加した生徒の報告</li> <li>② 本プログラムを利用して小笠原へ渡航した生徒の成果発表会</li> </ul>	全校生徒に対して、本年度実施した海洋教育についての成果発表会を実施した。

## 2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

### 2-1. 単元における位置づけ



単元  時間中の  時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

### 2-2. 本時の目標

漂着物調査を通して、八丈島の環境に与える影響を課題としてとらえ、環境保全のための方策を、漂着物調査を通して探究し、生徒の日常生活への振り返りを行わせる。

### 2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>海洋ゴミはどこから来るのか？ そしてどこに向かうのか？</p> <p>海岸にあるゴミの種類や発生源について知る</p>  <p>地理の授業で学んだ日本近海の海流について、教科横断的な学びにより振り返らせる。</p> <p>日本からの漂流ゴミは海流に乗って、太平洋を北東方向に流れるゴミが多いことを知る。</p> <p>季節によって風の向きが変わり、ゴミの漂着する方向に影響することを知る。</p>  <p>生活の中から出されるゴミの存在や、プラスチック製品が便利な生活を生み出す一方で、土に還らずゴミとして存在し続けることを知り、自らの生活習慣の在り方について考えるきっかけとする。</p>	<p>図書館資料やインターネットを使った調べ学習により、海岸にあるゴミの7割が陸で発生したゴミ、残りの3割が海で発生したゴミであることについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漂流ゴミ…水面や水中に浮遊しているゴミ</li> <li>・漂着ゴミ…海岸に打ち上げられたゴミ</li> <li>・海底ゴミ…海底に沈んでしまったゴミ</li> </ul> <p>日本周辺の海流と風の流れについて学び、日本近海の海洋ゴミがどこから来ているのかを考えさせる。</p> <p>環境省HPから漂流・漂着ゴミに関するシミュレーションを見て、日本近海の海洋ゴミが、どこから来て、どこへ行くのかを予測させる。</p> <p>国内の自治体から出されている資料から、漂着ゴミの回収量について調べさせる。</p> <p>国内のみならず、海外から流れつくゴミだけでなく、海水浴などで国内から海に持ち込まれるごみの存在についても考えさせ、自らの生活習慣の在り方についても考えさせる。</p>

### 3. 今回の活動の自己評価

今回の行程（6月20日（木）八丈島発～6月24日（月）小笠原発）では、学校の休業日が大半を占めてしまうため、観光旅行的な要素が多く入る。それはそれで貴重な経験であるので必要なことは間違いないが、本来は生徒がそれぞれの島で海洋文化教育について学んできたものをぶつけあうための交流という位置づけを目的にしていたために、目的の半分が果たせなかったのではないかと評価している。小笠原諸島への渡航は週に1度の航行ということと、八丈を経由する寄港便は年に一度だけということもあり、日程に左右された研修となった。生徒たちの研鑽を深めるためにも、もう少し情報交換や落ち着いたコミュニケーションの場がほしかった。

島の自然環境を比べると八丈の自然も小笠原に負けていない。むしろ、海洋に関して近海での海の透明度や魚の多さは八丈の方が勝っていることが分かった。内地の人々から見ると大きな差はないはずなのに、観光の話題で差が生じるのは「世界遺産」というブランドがやはり大きいのかと感じた。

### 4. 今後の課題

小笠原の人々は自分たちが生活している島を世界遺産であることを理解していて、その価値を保つために、環境を保持する意識がとても高かった。住民一人一人、高校生のレベルまでその責任感が浸透していたことは見習わなくてはならない。海岸にはゴミ一つ見つからなかったのは世界遺産やウミガメのための環境を守ろうとする島の人々の強い意志と、実際の行動によるものであったかと思うと頭が上がらない。今回の海洋文化教育の構築にあたって、八丈島で海洋ゴミの分析活動を行ってきたことはとても大きな意味を持つことがここにきて初めて思い知らされた。

また、高校生目線で八丈島の発展について考えを巡らせていたのはとてもよかった。（募集の段階で課題意識を明確に持っていた生徒を3名選ぶことができたのがこのような結果につながっているように思う。教員の負担は大きいと様々な視点が出てくるし、今回のメンバーは視点のバランスもとれていた。）

集客のために、高校生レベルではSNSのPRを挙げていた。こういう点は生徒会などと共有して、今夏に三宅島で開催される島しょ高校生サミットのような行事につなげたい。（島しょ高校生サミットは令和元年7月に三宅島で実施された）

さらに、小笠原では、若い世代が自然環境に魅了され、父島に多く移住しているようだ。そこで結婚もし、長く住むことが人口増加の一因となっている。

・海洋教育という視点が効果的に実施できたかという点では、本プログラムの計画の段階で生徒の目的に海洋教育の視点をもたせ、行程もそれを解決できるようなものを多く取り入れることができれば、よりスムーズに目標を達成できる。事業参加までに準備期間が短く、今回は困難であったが、今後の課題とする。

## 5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

校内での学習活動だけでは見いだせないものを本プログラムの実施を通して活用できた。今後も予算が縮小されるので、大きな活動はできないが少しでも八丈島の子どもたちが海とかかわり海洋がもたらした文化を担えるような指導を創意工夫しながら継続していきたい。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書\_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書\_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。